

# シリーズ 地域医療連絡室から ③

地域医療連絡室 (JUNC) では、地域の医療機関と当院の各診療室との中継点として、患者さんの診療がスムーズに行われるよう、的確な情報提供・医療連携のお手伝いをしています。今回は、クリニカルパスと地域連携パスについてのお話です。

## クリニカルパス

クリニカルパスは、良質な医療を効率的・安全・適正に提供する手段として開発された診療計画書です。1950年代にアメリカの工業界にて開発された手法を応用し、1980年代からアメリカの医療界で使われ始めました。この考え方(診療計画)は、1990年代より日本の医療機関でも一部導入されました。クリニカルパスを利用することにより、診療の標準化や根拠に基づく医療の実施 (EBM)、インフォームドコンセントの充実、業務の改善、チーム医療の向上などの効果が期待されています。

この概念を地域医療機関で共有するツールにすると...

## 地域連携パス

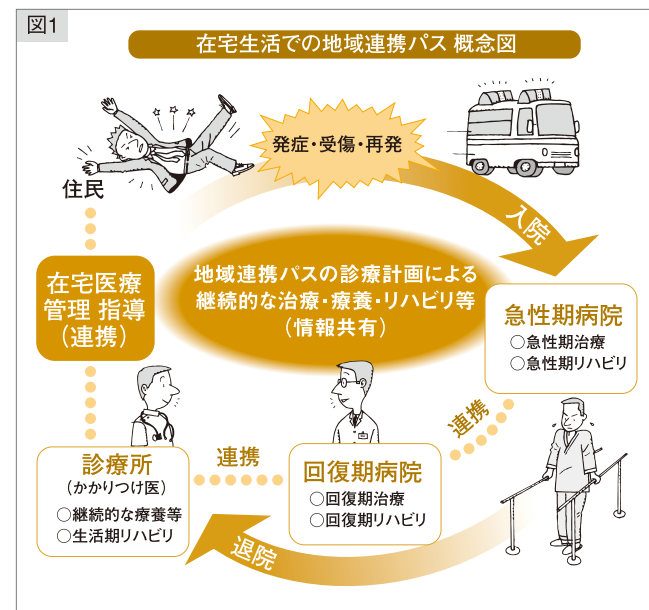
地域連携パスとは、急性期治療を行う病院と回復期治療を行う病院、生活期治療を行う診療所等が、あらかじめ各疾患に応じて役割分担や標準的な治療方針・治療期間、転院の基準等を定め、共有して用いる診療計画書のことです。

具体的に言うと、聖隷浜松病院(手術など)とリハビリを行う連携病院、かかりつけ医等との間で、患者さんの在宅復帰に

係る計画(診療内容と治療経過、リハビリテーション計画、最終ゴールなど)の情報共有・情報交換を行うことで、転院・退院して主治医が変わったとしても、患者さんは時々の状況に応じて質の高い(専門的な)医療を、継続して受けることができますようになります。(図1)

現在、当地域では「大腿骨頸部骨折」と「脳卒中」において地域連携パスの運用が始まっています。これらの地域連携パスは、県西部広域にわたる「急性期病院」と「回復期病院」、「診療所」と連携しています。そのため、当地域の地域連携パスに参画している医療機関でこれらの疾患の治療を受けた場合、統一された診療計画に基づく治療を受けることができます。まさに、地域全体で標準化された診療を患者さんへ提供する体制ができています。

今後はがんや糖尿病、心筋梗塞などの他の疾患も、地域連携パスが地域での協力的のもとに整備されていくものと考えられます。



## 脳卒中地域連携パス(患者様用)の一例

急性期病院		(中間医療施設)		維持期担当施設	
担当医療機関	【施設名:】 あなたの連携先を直線(太線)で明示していきます 複数の医療施設が連携して、治療や機能回復・維持を実施していきます	【施設名:】 □リハビリ病院 □療養病院 □その他( )	【施設名:】 □自宅 □介護施設( ) □療養病院 □その他( )	【施設名:】	
再精査指示	□3ヶ月後 □6ヶ月後 □1年後				
あなたの目標	希望: 社会復帰 自宅復帰 他( )				
治療	□手術を行います □薬物治療を行います □危険因子の評価を行います □再発予防の投薬を行います	□再発予防の投薬を継続します □全身状態の管理と定期的な評価などを行います □起居動作・移乗や移動動作などの訓練を行います □日常生活や社会参加場面に応じた訓練を行います □コミュニケーション・嚥下などの訓練を行います □日常生活に即した訓練や指導を行います □介護保険や各種制度の説明、利用法、その他何でも困ったこと相談にのります □各種から家屋環境調査、杖・装具・車椅子等の選定・導入及び退院後の在宅できるリハビリの指導、家族指導を行います	□再発予防の投薬を継続します □危険因子の管理とフォローアップを行います □日常生活動作の維持訓練を行います		
リハビリ	□急性期リハビリを開始します				
説明と承諾	病状や予後について説明します 入院治療方針等に本人またはご家族の方に承諾頂きます	機能回復の見通しなどを説明します 入院治療方針等に本人またはご家族の方に承諾頂きます	再発兆候の有無や日常生活動作の維持方法等について説明します		
その他	自宅復帰時には日常生活が行い易いように改修などのアドバイスをいたします 必要に応じて介護認定・障害者認定などの申請手続きについてお手伝いします				
説明と同意	私は、この表にある地域連携診療計画に関する説明を受けました。記載された診療情報が各連携医療機関で共有されることに同意します。 2010年 7月 1日 主治医: 浜松 次郎				
(署名)	患者氏名 又は 代理人氏名: 聖隷 太郎	患者氏名 又は 代理人氏名:	患者氏名 又は 代理人氏名:	患者氏名 又は 代理人氏名:	患者氏名 又は 代理人氏名:

※病状により上記の内容は変更となる場合があります。  
※治療結果の具体的な内容はサポート内に記載されておりますのでご確認ください。  
※地域連携パスには、あなたの大事な情報が記載されています。加筆や変更などは危険ですのでご遠慮ください。  
※記載された診療情報は、事務局等で匿名化(個人が識別できないデータとする)の上、統計的解析や学術発表等に使用される場合がございます。ご了承下さい。

# 患者会 紹介 浜松脳卒中友の会 (あゆみの会)

## 励まし励まされ、集う仲間

浜松脳卒中友の会(あゆみの会)は1990年に設立されました。今、二十数年の思い出が走馬灯のように走り抜けていきます。友の会が今日あるのは、多くの支援者(病院の先生方、理学療法士の先生方(ヘルパーさん)のおかげと感謝いたしております。私たちはある日突然、片マヒや言語障害などの「障がい者」になってしまいました。その恐怖、驚愕は言葉にはあらわせません。ベッドから起き上がれない、手が動かない、言葉が口から出てこないなどのもどかしさに何度涙したことでしょう。窓外に見えるお宅の玄関から出かける家族の朝の慌しい様子は、普通の日常生活の一片に過ぎません。それが私にはとても愛おしく、大切なものと思われると同時に、「もうあの世界には戻れないのでは」と絶望感にもさいなまれました。

しかし、そんな気持ちを救ってくれたのが病室やリハビリ室の仲間でした。同じ病と闘う仲間の姿、言葉はとも「励まし」になりました。そして、時には痛い訓練や厳しい言葉に反発することもありましたが、支えてくれたリハビリの先生は退院後の生活を一緒に考えてくれました。  
「いつもこの仲間と一緒に過す」ときが持てたら、「」の願いが「友の会」として誕生しました。この会は年に数回集まって、講演を聴いたり、歌を歌ったり

## 2010年度の活動予定

- 4月: 総会と講演会 ○5月: 泊旅行
  - 6月: 反省会 ○7・8月: 機関誌「あゆみ」の作成
  - 9月: 講演会 ○10月: 食事会 ○11月: 講演会
  - ※講演会の後には「おしゃべり会」を行っています。
- 代表 横山 光江 TEL 053-48514139

して交流を深めたりするほかに、「泊旅行、食事会、カラオケ、囲碁、言語、散歩などの同好会の行事が組み込まれています。」

「同じ病を抱える。仲間の会です。お互い気兼ねの無い付き合いができる会です。帰るときはお互い元気を貰ったり、励まされたりして、又の再会を楽しみに会場を後にします。」  
友の会は、三千円の会費と私たちの手で運営されています。創設時には四十数名だった会員も多いときには百人を超す盛況振りでした。しかしデイサービスの誕生で、現在は会員が減少しています。友の会の火を消すわけにはいきません。この記事を読んで私たちの会に興味を持たれた方はご連絡ください。お待ちしております。



# 居酒屋 「RYOUMAYA」

ちよっとひととき

053-479-3821

静岡県浜松市中区住吉5-14-3

- ◎営業時間/18:00~24:00
- ◎定休日/火曜日
- ◎駐車場/7台

住吉ハイパス沿い、バス停「青少年の人口」近くに居酒屋「RYOUMAYA」があります。音楽関係の仕事がきっかけで浜松に来たマスターのBOB(ボブ)さんは、2006年にRYOUMAYAを開店。店名は、BOBさんの2つの思いを込めて付けられました。1つ目は、大の坂本龍馬好きであること。2つ目は、大好きなソウルミュージックにちなんで「RYOUMAYA」にしようです。RYOUMAYAで楽しめる料理は、BOBさんの出身地である宮崎県の郷土料理。チキン南蛮、地鶏の日向焼き、手羽先などが食べられます。また、BOBさんは有名ミネリジシャンとの人脈が広く、過去に多数来店しているとのこと。

BOBさん曰く、縁結びのパワースポットとしても名を馳せているそう。ここで出会ったカップルが何組も結婚したとのこと!

RYOUMAYAへ行くと龍馬の如く何か閃くかもしれません。皆さんも一度足を運ばれてはいかがでしょうか。